

平成 21 年度 事業報告

今年度当初、新型インフルエンザの渦で下呂温泉もキャンセルによる宿泊客の減少、またデフレ経済により宿泊単価の低減消費不況など、前年にもまして非常に厳しい年となりました。こうした中で下呂市では補正予算による「下呂温泉緊急誘客対策」、「観光計画の策定」、「ホスピタリティ都市宣言」など積極的な取り組みが行われました。21年度の下呂温泉の宿泊客は100万8千人で前年度対比6%減少、昭和47年頃と同じ宿泊者数まで落ち込みました。

着地型、体験型旅行の需要が高まる中で、岐阜県の宝物第1号に選ばれた「小坂の滝巡り」と下呂温泉の宿泊や案内人付きのセット企画、特典付き地域特選プランなど関係機関との連携で、誘客、情報発信に努めました。JR 東海の「Shupo」や「飛騨路キャンペーン」、主要駅でのポスター掲示などのタイアップ、JTB や JAF（日本自動車連盟）など関係各社の地域特典プランなどとも連携をしました。

旅フェアをはじめとして、岐阜県の「飛騨美濃じまん運動」や、関東、中部、関西など関係機関の観光展に参加をするとともに、単独での観光物産展の開催などの誘致宣伝事業を実施しました。

また、3年ぶりに名古屋での「中部地区観光客誘致会議」を開催し「厳しい中でも元気がある下呂温泉」との評価をいただきました。

海外からの誘客では、下呂市台湾事務所との連携で情報収集や発信、台北旅行博覧会（ITF）に参加、また、海外で初めての「台湾誘致会議」を行い、航空会社、旅行会社との商談会の中で旅行商品造成を図り、台湾からのツアーが実現しました。また、韓国テレビドラマの撮影支援を行い、韓国からのツアー企画を進めております。

インターネットでの情報発信は、下呂温泉旅館協同組合、下呂商工会との連携で互いの独自性を発揮しながら、商工会の、「G ランチ&G グルメ」、「G スイーツ」や「足湯」巡り、季節の話題などを折り込みながら、情報発信を行っています。

各種媒体による観光宣伝やパブリシティなど効果的な情報発信にも努め、各種パンフレットや旅行商品造成用の素材シート「下呂温泉観光ナビ」を発行しました。

下呂土木事務所や下呂市との意見交換会などを通じて、まちづくり、基盤整備、道路標識の整備などをお願いし要望活動なども実施してまいりました。

「下呂市地域雇用創造協議会」の事業にも組織の構成員とし研修事業などに参画をし、下呂市の「ホスピタリティ都市宣言」を提案し実現となりました。

高山本線の強化促進、交流研修事業として続けてきました車上セミナーでは遷都 1300 年の奈良を訪ね、薬師寺で岐阜県出身の山田管主の講演を拝聴しました。岐阜県の関係者などによる勉強会に参加し「今何をしなければならないか」についての研鑽を図ってまいりました。

環境整備では温泉街の花木の植栽、選定、桜のテングス病の駆除を行い、恒例の飛騨川クリーン大作戦は「全国豊かな海づくり大会」協賛事業と位置づけて実施しました。

恒例の「いでゆ夜市」や「キャンドルイルミネーション」などの実施、「下呂温泉まつり」や「花火ミュージカル」、「花火物語」など関係事業との連携、下呂交流会館「アクティブ」での下呂温泉卓球大会、JR さわやかウォーキングなどのスポーツコンベンションなどにも協力をしてきました。

また、「ふるさと雇用再生特別基金事業」を受け、「下呂温泉魅力アップ支援事業」として2名の職員を雇用し、多様化する旅行需要に対応するよう努めてまいりました。

「観光協会だより」を隔月で発行しました。皆様の格別のご協力に深く感謝を申し上げます。